

令和元年度第1回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要旨

- 1 日 時 令和元年6月5日（水） 10時30分から11時50分
- 2 場 所 当別町役場第2庁舎 会議室
- 3 出席委員 黒澤委員長、川村副委員長、宮崎委員、高橋委員、田口委員、石田委員
- 4 町出席者 事務局：江口部長、長谷川課長、石原係長、井田主任、寺田主事
- 5 傍 聴 者 1名
- 6 会議要旨

(1) 委員長選出

事務局より提案、承認により決定。 → 委員長 黒澤委員 副委員長 川村委員
(黒澤委員長)

前任の山田委員長の後を継いで推進委員会の委員長を仰せつかりました。力の及ぶ限り一生懸命やっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(川村副委員長)

皆さん一緒に力を合わせて、将来の当別に向かって進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(議題)

(2) 令和元年度のスケジュールについて

資料1、**参考資料** ～長谷川課長説明

(事務局)

総合戦略の期間は今年度が最終年度です。令和2年度からの次期総合戦略を策定するよう、事務局で取り進めているところですが、町としては、総合計画というものがあり、お手元にある第5次総合計画の計画期間のスタートが平成21年で、概ね10年としておりますが、実は10年過ぎて11年目に突入している計画です。概ね10年のため、大きく逸脱しているわけではありませんが、総合戦略と併せて総合計画の見直し、第6次総合計画の策定作業も進めております。総合計画と総合戦略を併せて、一体的にご審議いただくようこれから進めていきたいと思っておりますので、本推進委員会においても次期総合戦略については、2回目、3回目にご審議いただきたいと思います。

なお、総合計画の欄にありますが、総合計画を策定するところで、5回ほど総合計画審議委員会を進めていきたいと思っておりますが、こちらの戦略推進委員会の皆様におかれましては、後日改めて皆様にお問い合わせしようと思っておりますが、差し支えなければ総合計画審議会にもご参画頂戴できればと思っておりますので、大変お忙しい中、恐縮ですが、その旨もご承知おき賜れば幸いに存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、総合計画の策定について考え方をご説明しますが、参考資料をご覧ください。新しい総合計画の計画期間は2020年度、令和2年度から概ね10年という形で策定したいと思っておりますが、この計画の構成ですが、現在の総合計画が、基本構想と重

点プランの2つの構成になってますが、新しい計画については、基本構想編及び総合戦略編として、新しく策定する総合戦略を総合計画の中に組み入れた形で策定しようと考えております。我々としては、総合計画の議論の中で総合戦略も併せて審議して進めていきたいと考えておりますので、そういう意味合いで総合計画審議会にも皆様にご尽力賜れば幸いに存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。そういったことで今年度については、総合戦略のみならず総合計画も含めて次年度以降スタートする新しい計画づくりにご参画いただくということをお願い申し上げて説明に代えさせていただきます。

(宮崎委員)

もともと第1期の総合戦略を策定する際には、人口減少の課題を踏まえて今後どうか、という未来を描くという計画でありつつも、その当時からの内閣府の補助制度などの活用年度にどういったことを具体的にするかという行動計画的・具体的な施策、しかも全てではなく内閣府の傾向を少し持ちながら書かれていたのではと思うが、第2期を策定するに当たって、国の施策との関係においてどのような認識でいるのか。

(事務局)

現在の総合戦略の見直しという位置づけで次期総合戦略を策定させていただきたいと思っております。例えば、道の駅については、建てることができ、これにつきましては次の予定として道の駅の活用に向けたプロジェクトに置き換わるなど、一部見直ししていくことがありますが、今ある14のプロジェクトについては、基本的に中々道半ばものもありますので、引き続きという考え方です。また、5年経過しており、新たな視点も入ってきますので必要に応じて庁舎内部で検討して新たなプロジェクトが出てくればご提案させていただくことになると思います。考え方としては、1期目の総合戦略とスタンスは変わらず作らせていただこうと思っていることと、国も2期目の総合戦略を打ち出しており、それを見ると、経済戦略などを中心に組み立てられている部分が多いのでそれほどスタンス的には変わっていないのかな、ということと、地方創生の内閣府が持っている交付金も基本的には変更ないと今のところ伺っておりますので、そういったところを踏まえましてあくまでも現戦略の見直し、引き続き同様なスタンスでバージョンアップさせた形で策定していくということでご理解いただければと思います。

(3) 総合戦略の進捗状況及び新年度予算の主要事業の概要について

資料2、**資料3**、**資料4** ～長谷川課長説明

(宮崎委員)

出生数の減少要因はどのように分析しているか。

(事務局)

人口の構成からいくと、25～39歳の人口がものすごく少く、当別町の人口ピラミッドを見るとその部分がくびれた形になっています。まさに子どもを生んでいただく年代です。その部分が少ないために出生数として考えると減ってきているものと考えます。

(宮崎委員)

少ないのではなく、そこが減っているのか。平成26年度から平成30年度にかけて出生数が減っていくということは、今説明した年代が同じくらいの割合で減っていくのか。

(事務局)

資料2中の生産年齢人口が10.3%減となっていますので、当然その数値はその世代にも当てはまりますので、概ね1割くらいはもともといない中でさらに減少し、そのため出生数もやはり伸びないのでは、と考えます。

(黒澤委員長)

若い人が少ないということが原因かと思いますが、伸びている自治体もあるわけで、そういうところの伸びている原因の分析はしているのか。

(事務局)

伸びている自治体を捉えると、極端に子育て世帯向けのサービス事業を大きく展開しているのがあります。例えば乳幼児医療費は100%かかりませんか、また、大体大きな都市のベッドタウンのようなところがそういう制度を取り入れて、例えば札幌市に住むよりは、ちょっと離れても子どものサービスがいいからという理由で近隣に住もうという感じで出生数を伸ばしている自治体がありますが、その施策を全部導入できるかどうかというところが壁になって、財源を伴うためその部分が難しいところかと思っています。

(高橋委員)

子育てに関しても、東神楽町などのようにするには予算ありきの話と思う。ベッドタウンという意味では当別町も同じ状況なので期待している。

私たち商工業の話で行くと、商店メンバー、事業者の会員数が増え、337号が開通し、物流面に関しても期待しているところ。商工会長の立場としては、(今後の創業の業種としては)町内商店街に飲食店作っていきたい。

(田口委員)

この計画は、色々な部署に関わってくるものと思っているが、例えば企業誘致や再生エネルギーなど、私が日々営業活動しているときにお客さんからの求めに応じられる資料が中々出てこない。例えば企業立地で、工業団地がないのは構わないが、では未利用地ならどこの場所なのか、面積や数など中々分からない部分もあるかもしれないが計画を立てて遂行しようとしているときに、役場だけで進めるわけではないと思うので、そういう民間の力を使うのであれば、民間がほしい、民間と共有できるものがあれば。エネルギーに関しても、当別町は地中熱の資料を見たところがあるが、あれは役場が調べたものではなく、どこかの誰かが作った資料を延々と使っていて、いざお客さんが出てきてやろうと思って、ここは何℃なのか、といった質問もわからないという部分があるので計画を作るとき、計画に対してどんな働きかけをして一緒にやっていけるかという部分をぜひとも検討いただきたい。

また、小中一貫校の部分で、6千万円の基本設計の支出は終わったのか。実施設計はどのくらいか。

(事務局)

繰越事業となっており、間もなく基本設計が終了し、その後支払いが完了します。実施設計は今のところ1億6千万円くらい。

(田口委員)

実施設計でダメになることはあるのか。

(事務局)

基本は、実施設計までいくと、そのまま実施設計をした額がほぼ町の予定価格となります。それから建設の入札に進んでいくため、そこからバックするようなことは基本的にはないと思われます。

(田口委員)

素晴らしい学校だと思うので、ぜひとも実現していただきたい。

最後に道の駅で、スウェーデン館が寄贈され、t o b e で運営するのか。t o b e に支払う年間の予算額が増えているのは、スウェーデン館の部分を含めてということか。

(事務局)

ご指摘のとおりです。

(田口委員)

ゴールデンウィーク中プレオープンとして、国土交通省のパネル展をしていたようで、費用対効果が非常に見えにくい部分があるので、こういった予算配置をするのであれば、引き続きt o b e と連携を取って、かけるお金に見合った実施をしていただきたい。

(事務局)

パネル展は、国交省負担で実施しており、t o b e の経費負担はないと聞いております。

(石田委員)

小中一貫教育の話で、当別町の学力テストの結果について、太美の学力テストの結果は全国で見ても非常に良い、石狩管内でも抜群に良いと聞いている。そうすると本町地区と大分差があるのか。

(事務局)

西当別地区はテレビ番組でも取り上げられたほど優秀な結果になっております。そうすると本町地区の学力との差によって全国平均を上回れないというのは否めない部分があります。公式には出していませんが、石田委員のご指摘のとおりそういう傾向はあります。

我々としては、その格差を埋めるべく、こちらのほうに義務教育学校を新設し、新しい学校でさらに西当別よりは先行した形で一体型の、中学校の良さを小学校高学年まで波及するべく教育体制を整えていこうと考えており、希望的観測かもしれませんが、義務教育学校が建設され、カリキュラムがスムーズにいくようになれば、幾ばくかは学力が伸び、西当別地区に追い付け、追い越せと底上げが図られる可能性はあるかと考えております。

(宮崎委員)

社会減、自然減について考えているが、社会増減を見ていると改善してきているので、出生数はなぜかな、と思っている。なぜ当別町に新たに住むかとか、ライフステージが変わったときに住み続けるかというところは「自然」は強みかと思うが、障壁を取り除くというのであれば、若い方であれば「学校」、ご年配の方であれば「病院へのアクセス」でしょうし、そういったところからサービスへどうアクセスできるかというのはやっぱり大事で、まず最低限として車を運転できない方がアクセスできるというのがすごく大事なので色々と公共交通について取り組みを進められているというご説明だったので、すごく大切なことなので、ぜひ移動が便利なお出かけが便利なまちだというように思ってもらえるように公共交通に取り組む続けていただければと思う。

(黒澤委員長)

総合戦略の進捗の説明があり、今年度はまとめということですが、今日は説明がメインということで、これを基本にして今後、新しい総合計画の審議も始まりますのでこちらも皆様方に活躍いただくということをご理解いただき、次回もご意見をいただきたいと思います。

(4) その他

(事務局)

今回、ご意見をいただきましたが、改めてメール等で今日の振り返りでさらに加えるべき意見等の有無について照会をかけさせていただき、次の会議で集約したものを今年度分の意見書として次回委員会においてご提案させていただきますのでご協力よろしく願います。次回の日程は8月ですので改めて調整させていただきます。

(以上)